

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU CITY

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2790 ORGANIZED :Nov.20,1991

国際ロータリー第2790地区 富津シティロータリークラブ 創立1991/11/20 RI加盟承認 1992/1/13

2017～2018年度

2017～2018年度

R.I会長 イアンH.S.ライズリー

富津シティRC会長 立石 泰之

Office

20-1 Shintomi, Futtsu shi, Chiba ken
TEL 0439-80-2525



ロータリー:
変化をもたらす

例会場：新日鐵住金(株)技術開発本部 富津クラブ
千葉県富津市新富20-1

TEL : 0439-80-2525

事務所：新日鐵住金(株)技術開発本部 富津クラブ
千葉県富津市新富20-1

TEL : 0439-80-2525

Meeting Place

Futtu club ,at12:30, Wednesday at 18:00,Last Meetings

例会日： 水曜日 12：30～13：30

最終例会 18：00～19：00

第2790地区ガバナー 寺嶋 哲生 (柏RC)
第4分区ガバナー補佐 内田 稔 (木更津東RC)
富津シティR.C会長 立石 泰之
" 副会長 椎津 裕貴
" 幹事 高木 一彦
" SAA 遠藤 和夫



会長



副会長



幹事



SAA

No 1 2 2 6 第 1 3 回 例会 2 0 1 7 年 1 0 月 4 日 (水) 曇り

SAA 遠藤 和夫会員

ソング 「君が代」
「奉仕の理想」

点鐘 立石 泰之会長

ソングリーダー
小倉 博人会員



【会長挨拶】 立石 泰之会長



皆さん、こんにちは。今日から10月の例会になりました。深まる秋といった感じです。空が高く広がり、草木に季節の移ろいを感じます。10月はロータリー特別月間では「経済と地域社会の発展月間/米山月間」になります。本日はお客様がお見えになりました。国際ロータリー第2790地区 地区米山記念奨学委員会 副委員長 石田善一様です。後ほど卓話を宜しくお願い致します。ロータリー米山記念奨学事業とは全国のロータリーアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奉仕です。2016年度のデータですが日本最大の民間奨学事業で年間採用数750名。これまでに支援してきた奨学生は累計19,808名(125の国と地域)になるそうです。

この事業は国際奉仕活動、青少年育成、国際親善にもなりますので当クラブも支援して行きたいと思っております。地域社会の話として富津が誇ります養殖海苔の話をして頂きます。富津市富津の新富津漁協の養殖海苔は千葉県内の海苔生産量の5～6割を占める一大生産地です。先月から養殖海苔網への種付け作業が始まっています。漁港付近での水車を回して網に胞子を付ける独特の光景は、東京湾に秋の訪れを告げる風物詩となっております。我が家では毎年テレビのニュースや新聞でこの風景を見る事が楽しみになっております。海苔養殖は2年連続で不作になっていて原因は海水の温暖化、魚の食害などのようです。私の親類や友達も海苔養殖をしまして真冬の凍える中、早朝から

広報委員会 佐々木敏郎 和田充敏 窪田謙 竹内謙治 高木一彦

海苔網に漁船をくぐらせています。収穫は11月中旬から始まるようですから今期の豊作を願っております。海苔が採れ始めましたら富津市の冬の味、生海苔を工夫して料理に生かした富津市商工会主催の「ふつつ生のりフェア」が開催されると思います。市内の飲食店が多数参加しますが私の一押しは当クラブ小倉さんの「ひろ寿司」です。お寿司の他にも生のりを使った自慢の逸品を食べに行ってください。私は今から生のり料理が楽しみです。今月も宜しくお願い致します。

【お客様】 国際ロータリー第2790地区 地区米山記念奨学委員会 副委員長 石田善一様

【結婚祝い】 10月10日 佐々木 敏郎会員



【幹事報告】 高木 一彦幹事



こんにちは、まずもって、米山記念奨学委員会副委員長の石田様、富津シティロータリークラブへお越しいただきありがとうございます。それでは幹事報告をさせていただきます。

- ・ 18日の例会ですが、玄々堂亀田の郷への職場訪問となっております。当初の予定ですと、富津クラブにて通常例会と食事を済ませてからの移動となっておりますが、当日に全館貸し切りの予約が入ってしまった為に、例会場が用意できない事態となってしまいました。しかし山口さんのご厚意によりまして、例会・食事とも玄々堂亀田の郷で可能という事になりました。当日は、12時に玄々堂亀田の郷に直接来場いただき、食事と例会を済ませてから職場見学となります。なお、食事の用意の関係から、欠席の連絡は16日(月)の午前中とさせていただきますので、ご協力お願いいたします。
- ・ 国際ロータリー第2790地区ツーリングの案内が来ております。先日参加した会員増強・退会防止セミナーでも話題になりましたが、近年オートバイを通じて会員増強に成功しているクラブがあります。当クラブでは和田直前会長と私が対象者になりますが、ご興味のある方は参加してみてください。
日 時：2017年11月3日(金/祝) 8:00大栄パーキングエリア集合 15:30解散
目 的 地：銚子方面
※雨天中止
- ・ RI事務局より財団室NEWSが届いておりますので回覧いたします。
- ・ 経済と地域社会の発展月間 リソースの案内が来ておりますので回覧いたします。
- ・ 木更津ロータリークラブより週報が届いております。

以上で幹事報告を終わります

【委員会報告】

・ 奉仕プロジェクト委員会 宮崎 晴幸会員



- ・ ベトナム訪問日程を11月10日と17日で会員各位の多数決を取り11月10日で決定した。
(参加予定者：立石会長・高木幹事・秋山会員・窪田会員・和田会員)
- ・ 10月が米山月間だったので米山記念奨学会副委員長石田氏を招いて米山の歴史展望を卓話をして貰った。

【卓話】 米山記念奨学事業について

国際ロータリー第2790地区 地区米山記念奨学委員会 副委員長 石田善一様



富津シティロータリークラブの皆様こんにちは、本日卓話にお声をかけて頂き誠に有難う御座います。

私は、地区米山記念奨学委員会の副委員長を拝命頂いて居ります。石田善一です。

所属クラブは市川南ロータリークラブです。

平素は、米山記念奨学事業に対し、格別なご理解・ご協力を頂いて居ります。

改めまして御礼申し上げます、共になぜ今日の米山記念奨学事業がロータリアンの方々に、深いご支援頂いて居るのか、申し上げます。

米山記念奨学事業は、ロータリーの理想で有ります、国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としております。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会やロータリーの奉仕活動に参加することによって、日本の文化、宗教、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人に対して奨学金を支給しています。

米山記念奨学事業の創設は、戦後の混乱が落ち着きを取り戻すにつれ、当時の日本のロータリーの指導者の間では、米山梅吉翁の功績を永久的に偲ぶ事が出来るような有益な事業を始めようという動きがますます活発になって参りました。

戦後の復興するために国民が立ち上がり始めた頃、ロータリークラブもしばらくは不遇のときを耐えなければならなかった時期、誰よりもその復活を心待ちにしていた。米山梅吉翁は、1946年(昭和21年)4月28日に他界しております。

また、その一年後にはロータリー創設者ポール・P・ハリスも、1947年1月27日に他界致しました。

ポールハリスの死後世界のロータリアンの間では、彼の功績を記念して奉仕事業を起こそうという機運が生まれ、ロータリー財団の国際奨学制度が誕生致しました。

話は前後致しますが、1949年日本のロータリークラブがRIへの復帰がかなえられ日本のロータリアンたちは復帰を心から喜びましたが、同時に米山梅吉翁はそれを見届けることが叶わなかったことが悔やまれました。

米山梅吉翁は、幼少時米山家、養子縁組で迎えられましたが、沼津中学を中退して一人東京に出で勉学に励み、そ

の後19歳でアメリカに渡り、8年に及ぶ留学生を送りました。

当然ながら養父からの経済援助は受けることができず、東京での4年間・アメリカでの8年間は完全なる苦学生として、働きながら勉強に勤しんでおりました。

帰国した、米山梅吉翁は三井銀行に入行し、着実に才覚を発揮して41歳で常務取締役役に昇進しました。

数々の経験を経て財界の有力者となり、海外視察の際にロータリークラブの存在を知り、アメリカ・ダラスクラブ会員の福島喜三次氏に会い、ロータリークラブの話しを聞き大いに感動し、帰国後、ロータリー精神と組織の研究を致しました。

1920年福島喜三次氏が帰国時、ダラスロータリークラブより結成の要請を受け、シカゴ本部からも依頼されておりました。在日米人ウィリアム・ジョンストン氏の応援を得て東京にロータリークラブが誕生致しました。

会長に米山梅吉氏 幹事福島喜三次氏で発足致しました。

生前の米山梅吉翁は、青年期のほとんどを苦学生として過ごし、向学心が有りながら学資に窮する学生への援助を惜しまなかった。その奉仕精神はふところの深い、愛情にみちたものでありました。

エピソードとして、友人の青年が大学進学後、学資に困っているという話をしたところ、米山翁は、「未来のある人なら」と3年間の援助を申し出た。その際「米山という名は先方に告げてくださるな。ただ遠くから見守っている者があるから、と激励して渡されたい」と言って友人に援助金を渡したそうです。

当時、海外視察に出かける機会の多かった米山翁は、あるとき乗っていた船が暴風雨に見舞われ、あわや沈没という経験をした。危機的状況のなか、これまでやり残した事柄が脳裏をかすめたというが、そのなかには、まだ見ぬ大学生への援助もあったという。

無事帰国すると、米山翁は残りの1年数カ月分の援助をまとめて友人に渡したというエピソードが有りました。

自らの命の危機において、一人の苦学生のことを思ったという逸話に、米山翁の奉仕精神と暖かな人柄が表れています。

また米山翁は、東南アジアからの留学生に物心両面にわたる援助も行って居ました。

晩年は、財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・ガン研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕されました。

教育にも力を入れ夫人と共に、小学校設立には多くの私財を投じた様です。

1949年、日本のロータリアンの切望されていた。国際ロータリーへの復帰が叶いましたが、すでに3年前に米山梅吉翁は他界されて折り、RIではポールハリスを記念してロータリー財団の国際奨学生制度が発足された事もあり、日本でも、米山翁の偉業を記念する事業を創設しようという声が大きくなって来て居りました。

ロータリー財団奨学生第1号として、1950年(昭和25年)清水長一氏が渡米したことは、日本のロータリー復帰と発展の兆しを象徴するような喜ばしい出来事であった。

戦後の混乱が落ち着きを取り戻すにつれ、当時の日本のロータリーの指導者の間では、米山翁の功績を永久的に偲ぶことができるような有益な事業を始めようという動きがますます活発になって参りました。

このようななか、1952年(昭和27年)11月4日、東京ロータリークラブの古沢丈作会長(当時)によって「米山基金」の設立の構想思案が示されました。

米山翁が生前、若い青年たちへの

援助に力を注いでいたことを考えると、偉業を記念する事業として奨学事業が選ばれたことは必然のようにも感じられる。その背景については、1983年(昭和58年)の増田房二理事(当時)の講演から伺い知ることができます。

「わが国が進むべき道は平和を追求することであり、特にアジア諸国に与えた大きな損害と迷惑を鑑みれば、アジア諸国にこの平和日本を理解してもらうために、1人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、その肌で感じてもらうしかない」

当初、米山基金東京ロータリークラブ独自の事業として構想され、その内容は以下の様でした。

「当クラブの創始者であり、日本のロータリーの発展に偉大な足跡を遺された故米山梅吉翁の遺徳を記念するために「米山基金」を設立したと思う。

その事業・海外(当面はアジア地域)の優秀な学生の学費を援助し、わが国において2カ年研究させる。

奨学生の人数・当分2名までとする。

研究の範囲・医学、農業、化学および高額。

人選の方法・アジア地域内の主なロータリークラブに人選を依頼し、最後に当クラブにおいて選考決定する。

基金を得る方法

1、当クラブ会員より年2000円以上の寄付(任意)を求め、年約20万円を得て、2カ年をもって1期とする

2、当会員の代表とする事業、会社等より当分の間、一口・1万円を単位として寄付をあおぎ、1期200万円を得る

1・2の第1期収入目標を240万円程度とし、2名にて100万円、2カ年にて200万円、第1期の成績をみたうえ、当企画を延長実行する。

上記のごとき構想のもとに特別委員会をつくり詳細なプランを立てる。

他日、第60・61区クラブの加盟を歓迎する。

対象留学生をアジア地域としたのには、前にも述べた通り、戦争中に日本がアジア各地にもたらした被害に対する償いの思いも込められていた。

当時の目的:「米山基金の目的・アジア地域のロータリー所在地より優秀な学生を招き、わが国での勉学の機会を与えるものとする。運営の方法・国際理解と親善を図るためロータリー財団の奨学制度に準じて行う。

奨学生の数・毎年2名の奨学生を招くことにする。

奨学期間・2カ年間とする。

予算・学生1名の費用は年間50万円とする。

学生1名あたり年間50万円という予算設定は、この時代の人事院が公務員平均月給を13,515円と勧告した時代であることを考えると、余裕のあるものだったといえる。

この決定により、米山梅吉の偉業を記念した米山記念奨学事業が正式にスタートした。

1953年(昭和28年)4月には米山基金のための募金活動が開始された。

いよいよ招聘する奨学生を選出する段階となっていくた。

最初の国として選ばれたのはタイ国とビルマ(現ミャンマー)であった。この2カ国は戦時中に日本が進駐した地域でもあり、日本語に対する基礎知識が多少あるのではないかという理由で決定された。

当時は便利なインターネットなどない時代である。奨学生を決定するための国際間の連絡には、現在では想像できないような手間と時間を要しました。

タイのバンコクRCとビルマのラングーンRCにむけて奨学生推薦の依頼状を送付すると、バンコクRCからはすぐに返事があり、奨学事業の趣旨に賛成し、ぜひ協力したいということであった。

しかし、ラングーンRCからの返書はなかなか届かず、ようやく1名の学生推薦の返書が届いたものの、ラングーンRCの事情により、結局その学生は来日を果たせずに終わってしまいました。

それは、非常に残念な出来事であったが、ケガの功名というべき発見もあった。このときの余剰金を、すでに在日している留学生への奨学金に転用することになったのだが、その結果、国内にも奨学金を必要としている留学生は多数いることが判る。

そして、国内であれば、国をまたいでコミュニケーションをするよりも数段容易に奨学生の支給対象者を見つけられることが判った。

当時の日本はいまだ食糧事情が良くない時代であり、クラブに来ればお茶が飲めるということもあって、会員たちは弁当を持参して集まり、ストーブを囲んで熱心に討論を繰り返したという。

このような時代にあっても、わが国に民間レベルの国際奨学事業を興したいという熱意が結び、2年後には総額272万円が集まった。

ロータリーでは原則して募金の強制はできないため、集まった募金はすべて自発的な浄財であった。

バンコクRCでは、国際奉仕委員長が中心になって、日本への奨学生の選考が行われました。その結果、バンコク近郊枷サート大学卒業した・ソムチャード・ラタナチャタ氏が推薦される事になりました。

彼は、日本で養蚕学や果実の栽培と保存について勉強がしたいと言う希望を持っておりました。

初めての奨学生迎えるにあたり、委員たちは、大学への入学手続き、渡航や入国の世話などに当たりました。

無事、東京大学農学部から研究生として入学許可が得られ、宿舎は国際学友会からの提供を得ることが出来ました。

1954年(昭和29年)9月28日、第1行米山奨学生のソムチャード氏がタイから船で横浜に到着しました。

彼は日本の生活にすぐに溶け込み、東京RCのみならず各ロータリークラブにゲストとして招かれ、親交を深め、順

調に日本での生活が始まったように見えたが、さっそく予想外のことがおきました。

彼は、日本語の知識はあったものの、そのレベルが専門知識を学ぶのには不十分であることが判りました。

大学の専門的な授業において、言葉の壁というのは委員が想像していた以上に大きなものでした。

これにより翌年の4月までを日本語の学習に充てることになり、予想外の出費も出ました。

彼は東京大学農学部・修士課程に入学し、留学期間は、1958年10月まで4年間に及び当初の予定より倍の長さになってしまいました。

東京RCの人々が彼の人柄の良さに心動かされ、卒業までぜひ面倒を見たいとと考えたことによるものであった。

そこには、国も世代も立場も超えた、信頼関係という強い絆が生まれていた。

彼の卒業間際に、彼を推薦してきたバンコクRCから、実地訓練費用として日本円換算20万円を超える金額が送られて、国際奨学事業において、受け入れる側だけではなく送り出す側からも協力の手が差し伸べられたことは、喜ばしいことです。

そのお金は、彼に分けて送られたそうです。

海外から留学生を受け入れるということは、想定外のことが起きるものであることを、委員の1人ひとりが痛感いたしました。

次に選ばれた留学生は、東京大学の修士課程で学ばれている、学生ですすでに来日済みで入国する為の複雑な手続きも無く、円滑に事が運びました。

3名の奨学生は留学中、日本各地のクラブに歓迎され、行く先々で親善と交流の輪が広がり、東京RCが事業の成功に確かな手ごたえを感じ始めころ、米山基金の全国展開への扉が開かれはじめました。

1956年(昭和31年) 仙台で開催された第6区・横浜での第62区の年次大会で、東京RCの米山基金による国際奨学事業を全クラブ合同事業として継承する決議をされた。

ロータリーが掲げる、最も大きなものの一つは教育的援助である、東京RCかねてより、わが国に初めてロータリーを招致した功労者米山梅吉氏を記念して米山奨学資金を設け、東南アジアの有望な学徒を米山奨学生として、わが国の大学に留学させる制度を設け、東京大学大学院に米山奨学生として留学させ多大な効果を納めている。

この企画はとうといもので、ロータリーの国際奉仕として最もふさわしい事業で継続生が望ましい、この企画は単一クラブでは、負担が大きく広大なものであるから、全クラブで米山奨学制度を確立して行き、全国的な組織としてする事を決議する。

決議後、募金活動が開始され、各クラブに対し募金通知がされ、寄付金という言葉は使われず

「協力を願いたい」とう文面が使われた。

協力金は1カ月50円、当時たばこピース1箱40円の時代であり「ロータリアンたちは、月にたばこひと箱を節約して」という合言葉を掲げ、募金活動に意欲を燃やした。

1957年(昭和32年)ロータリー米山奨学委員会が発足致しました。

* 外国からの招致を主体とし、在日留学生を第二義的に取り扱う

* ロータリークラブの推薦を必須条件とする

期間は2年と規定され、場合により延長を認める事となった。

ロータリー米山奨学委員会として最初の奨学生募集は、全国19大かくに呼びかけられた。

そのうち8大学13名の候補者の推薦が届きました。

パキスタン(現在バングラデシュ)・ベトナム・インドネシア・フィリッピン・香港・イラン

セイロン(現在スリランカ)・タイの留学生です。

その中には、京都大学・九州大学も含まれて居て、奨学金は京都RC・福岡RCから渡され交流がはかられ、これが現在の「世話クラブ制度」の始まりです。

1959年(昭和34年)には、米山記念奨学事業は全国の地区及ぶ事になったが、現実には当時の地区割りですと、第365地区・第370地区での参加クラブは16クラブに過ぎなかった様です。

当時の委員会で米山奨学委員会の活動が不十分との意見で、地区ガバナーの了解を得て、広報活動に乗り出す事が決議されました。

その時決議された事の一つに「世話クラブ制度」・当時は「スポンサークラブ」と言う呼び名で有りました。

奨学金の手渡し・報告書の受け取りなどコミュニケーションを担当して頂きまして、後に人間的コミュニケーション

ンを深める目的が明確に示されました。

現在も受け継がれております。

財団取得に関しては、予想以上の困難がありました。

まず米山記念奨学会独立した事務局を持たず、個人の奉仕に頼っていたという点が挙げられ、財団法人の運営が基本財産の範囲大きく超えて年々の寄付金に依存しているという事も、主務官庁である文部省の理解を得るのに障害となって居ました。

「奨学金支給に関する一切の支出を財団はあらかじめプールしておかなければならない」と

文部省の主張であり、「浄財は必ず毎年集まる」という主張はなかなか納得してもらえなかった。

財団法人設立を目指すために、東京RCの事務局に依存する運営から独立し、新たな組織として責任ある体制をつくる必要でした。

その意味は、ロータリー財団が国際ロータリーと一心同体の関係にありながらも独立した機関として組織され、運営されていることは大いに参考になりました。

米山記念奨学会もロータリーに基盤を置き、別の組織として責任体制を持つ必要があると認識してきました。

1967年(昭和42年)委員の情熱と努力が実り、文部省より内諾を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会の設立総会が開かれました。

文部省の許可を得るにはその後もかなりの時間を要しました。

最後まで障害となったのが、財源の問題であり、安定財源を求める姿勢で有りました。

財団法人の認可後「ロータリー米山記念奨学会に対して行われてきた全国的寄付は継承され継続すべき確信」する事を国内全クラブからもらうことを条件に文部省は設立許可に向けて動き始めました。

これが今日の普通寄付にあたります。

最後に当地区の現状についてお話を致します。

寄付に付きましては、普通寄付はここ数年地区内のクラブはすべて協力頂いて居ります。

特別寄付につきましては、数クラブで協力して頂けない事も有ります。

平均値を見ますと、全国平均の11番位です。但し特別寄付の寄付割合パーセントは低いです。

言い換えれば、高額寄付者が多いという見方が出来ます。

採用奨学生は、20数名を数えております。

2018学年度は、27名の奨学生ですが、継続奨学生4名が居ますので(実数23名の新たな奨学生を採用出来ます)

全国的には、785名採用されます。

累計で19,808人となります。

一国に片寄ることなく、採用致します。国の割合も規定しております。

財団法人ロータリー米山記念奨学会は、法人化50周年を迎えました。

本日は卓話にお声をかけて頂き、ご清聴誠に有難う御座います。



【ニコニコボックス】

クラブ管理運営委員会

宮崎 晴幸会員

- 遠藤 和夫会員... 石田様、本日卓話ありがとうございます。
- 椎津 裕貴会員... 米山記念奨学委員会 石田副委員長ようこそおいで下さいました。
興味深く拝聴しました。
- 小倉 博人会員... 石田副委員長様、卓話ありがとうございます。
来月米山記念奨学生、イ・ソヒ氏の卓話もよろしくお願い致します。
- 三井 徹 会員... 米山奨学委員会 副委員長石田様、本日は有難うございました。
- 平野 勝也会員... おせわになります。
- 佐々木敏郎会員... 石田副委員長様、ようこそ富津へ。心より歓迎致します。
本日は結婚祝い、ありがとうございます。
- 和田 充敏会員... 石田様、本日は遠方よりお越し頂きありがとうございます。
卓話頂きありがとうございます。
- 宮崎 晴幸会員... 本日は石田様より貴重なお話を頂きありがとうございます。
又、是非遊びにきて下さい。
- 秋山 和彦会員... 米山記念奨学副委員長石田様をお迎えして。
遠路御苦労様です。何かと宜しくお願い申し上げます。
- 立石 泰之会長... お疲れ様です。本日は、米山記念奨学委員会石田善一様、ご来訪ありがとうございます。
今後も宜しくお願い致します。
- 高木 一彦会員... 米山記念奨学委員会副委員長石田様、本日はありがとうございます。
- 山口 稔 会員... 石田様、当クラブ卓話に御来訪ありがとうございます。
米山への理解が深まりました。
- 窪田 謙 会員... 本日の講師の国際ロータリー第2790地区米山記念奨学委員会副委員長石田様、本日の卓話
宜しくお願い致します。



本日のニコニコ	15,000円
累計金額	120,000円

【出席報告】

クラブ管理運営委員会

宮崎 晴幸会員

区分	会員数	出席	欠席	make up	出席率
今回	15	14	1	0	93.3%
前回	15	12	3	0	80.0%



【第4分区クラブ例会日程】

クラブ名	例会場	TEL	事務局TEL	例会日
木更津	東京ベイプラザホテル	0438 - 25-8888	0438 - 23 - 3080	木
上総	割烹旅館 山徳	0439 - 27-2003	0439 - 27 - 2336	木
富津中央	割烹旅館 いち川	0439 - 65-0177	0439 - 65 - 0177	木
木更津東	オークラ アカデミアパークホテル	0438 - 52-0111	0438 - 25 - 0716	水
君津	ホテル千成	0439 - 52-8511	0439 - 52 - 8882	月
袖ヶ浦	レストラン菜心味	0438 - 60-1753	0438 - 64 - 1139	月